

竹 原 市 取 受	
竹	4
-8.2.-9	
処理期限	
分類記号	

議 長	副議長	局 長	係 長	局 員
				

午前

9 時 15 分 受領

午後

令和 年 2 月 9 日
2026年

竹原市議会議員 高 重 洋 介 様

竹原市議会議員

松本 進



発 言 通 告 書

次のとおり通告します。

発 言 の 種 類	<u>一般質問</u> 緊急質問 ・ 質 疑 ・ 討 論
答 弁 を 求 め る 者	市 長 ・ 教 育 長
発 言 の 要 旨 (討論の場合は反対・賛成の別)	
(1) 住民の命と健康を守る水源汚染防止対策について (2) 竹原市、県立2校の存続と市長の決意について	

(1) 住民の命と健康を守る水源汚染防止対策について

私は、昨年12月市議会の一般質問で、竹原市内の河川水や井戸水への有機フッ素化合物（ピーフォス・ピーフォア等）の汚染実態と住民の安全対策等について質問しました。

市の答弁は、本年(2025年)10月に4地点の河川で水質調査を実施、その結果、田万里川で検出されたピーフォス・ピーフォアの合算値は130ng（／L）で、河川水の指針値50ng（／L）以下を超過していると確認しています。市は、住民に対して「安全性が確保されている水道水への切り替え等…を促す」、また「広島県等との連携を取り、河川の追加検査の実施、必要に応じた調査範囲の拡大する…」等々の答弁がありました。

2025年12月23日付け・竹原市の資料「有機フッ素化合物の追跡調査結果について」では、田万里川支流のピーフォス・ピーフォアの合算値が200ng／Lであり、10月調査よりも、さらに高い数値となっています。

そこで市長に質問します。

Q1、田万里川の有機フッ素化合物など汚染源の特定はどの様になりますか。その汚染源を除去するなど抜本的な水源保全対策はどの様にされていますか。明確な答弁を求めます。

Q2、本郷産廃場の排水は、水源汚染を防止する有効な施策を実施しなければ、竹原市側に流れて、竹原市の水源を汚染することは明確です。市民の命と健康の源である安全な水源を確保することは竹原市の重要な責務です。今こそ、竹原市の環境基本条例の理念等に基づく、竹原市の行政姿勢が問われています。早急に水道水源保護条例(仮称)を制定して水源汚染を防止すべきです。この水道水源保護条例はいつ頃制定できますか。市長の明確な答弁を求めます。

Q3、本郷産廃場からの竹原市側に流れ込む水源汚染の恐れについては、住民への説明会や住民意見等の聴取はどの様になっていますか。住民の意見・要望に対する水源保全の有効施策はどの様にされていますか。

Q4、本郷処分場からの浸透水での鉛検出について(2024年8月19日付)、北九州市立大学名誉教授(伊藤 洋)の報告について、市長に質問します。

Q4-1、この報告書には、本郷産廃場排水の汚染は、洗管作業に使用した井戸水(地下水)が原因と推定し…とありますが、竹原市は、本郷産廃場排水の汚染は埋立廃棄物に起因するものではないとお考えですか。私は、この報告書を作成した人は、本郷産廃場に廃棄物が埋め立て後、数か月で排水から臭いや泡がでた現状をまったく知らない人と考えます。

Q4-2、この報告書が、井戸水(地下水)が汚染の原因としています。この井戸水(地下水)はどこ場所にありますか。その井戸水の水質調査値も併せてうかがいます。

Q4-3、この報告書「P4(6)」には、「本郷処分場では、鉛の含有していない廃棄物(廃プラスチック類95%、がれき類と陶磁器くず5%)を厳重に管理して埋立を行っていると思われること…」とありますが、私は先の一般質問で、産廃場に搬入された廃棄物の全てが、義務付けられた展開検査をしないで埋立をしている現状を指摘して改善を求めています。

JAB組合が言う「厳重に管理して埋立」とは、展開検査をしないで許容されるということですか。市長の明確な答弁を求めます。

Q4-4、国土問題研究会の一員からは、本郷産廃場の竹原市側に流れる水質調査(報告書・2026年1月29日付)が報告されています。この調査による(資料1・別紙)と、電気伝導率は、きれいな水の地点③に比して、汚染された水の地点⑥では、41.86倍の電気伝導率が高い数値であり、水質の悪化が懸念されます。竹原市は、この場所等の水質調査や悪化の原因、汚染防止対策を早急に実施すべきと考えますがいかがですか。

(2)竹原市、県立2校の存続と市長の決意について

平井新市長は、当選後の新聞報道で竹原市内、県立2高等学校の統廃合問題で「両校の状況などを把握して判断したい」とか、「詳しい説明を受けていない中での個人的な思いと断った上で『両校を残してほしい』とも話した」との報道がありました。

そこで市長に質問します。

Q1、 2026年2月定例会市議会を迎えて、竹原市内県立高校2校への考えはどの様に整理されて、両校を残してほしいとの実現をどの様に取り組まれていますか。

Q2、 県教委との交渉回数や内容について、具体的に説明してください。

Q3、 市内・高校2校の存続ができない最大の理由は、少子化・人口減少など生徒数減に伴う、投資に対する経済効果が低いからですか。明確な説明を求めます。

私は、竹原市に2高校存続を前提に、生徒・保護者のニーズにもふまえた2校存続の実現をすべきでないかと考えますが、市長の見解と対応をうかがいます。

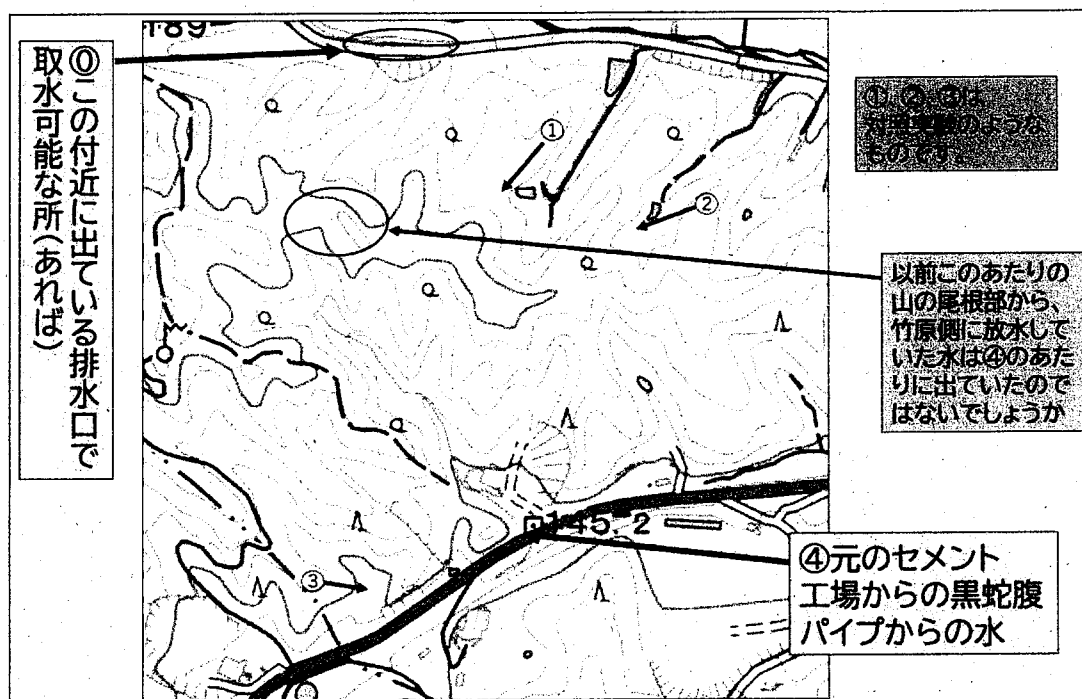


図1. 処分場周辺の湧水や表流水についての検討資料。処分場からの浸透水について検査するには、図1中の①地点の排水のうち、処分場由来と確認できるものを検出するのがよいが、そうしたものがあるかどうか、今回は確認できていない。④地点からの黒蛇腹管からの排水は、この間の処分場内の放水を含んでいる可能性がある。

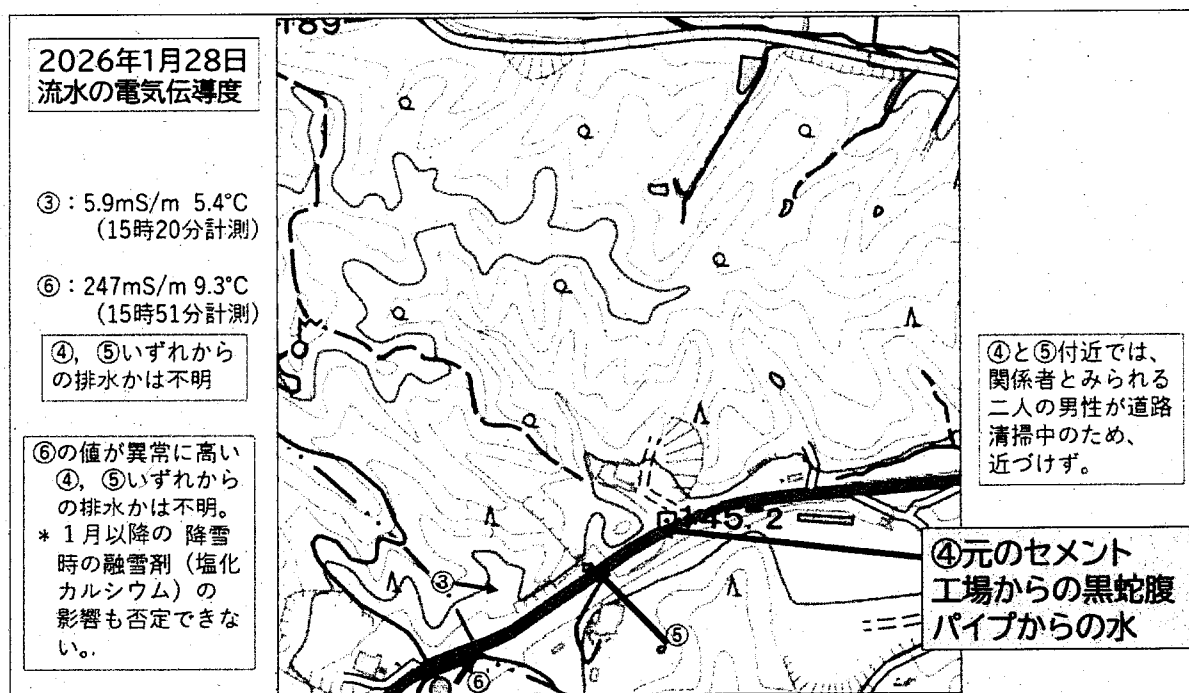


図2. 本郷処分場南側で今回水の電気伝導度を計測した地点(③と⑥地点)